

ピースメーカーとキリスト教

シェロ マイク

〔キーワード〕 ピースメーカー, キリスト教, 修復的正義, 非暴力, 平和

イエスは平和を実現する人でした。平和を実現する彼のミッションは弟子たちのコミュニティから始まりました。彼らが最初のクリスチャンピースメーカーでした。同情と癒しを通して平和を実現することがイエスの働きの核でした。「ピースメーカーは神の計画に従ってシャロームを作成する人である。これは神および他の人間との平和を含んでいる」¹⁾。シャロームという標語はヘブライ語で「調和, 正義, 慈悲」を意味します。このことは神の国は生きて働くというイエスの教えに基づきます。イエスの復活を通して, 神は人類にとって非暴力が最善の道であることを示されました。イエスが私たちにとって本当の愛と平和を実現する人の模範です。

旧約聖書による平和

預言者イザヤは, すべての人間の幸福を願う神の普遍的な考えをはっきりと宣言しています²⁾。現代の世界では, 資源の分配において大きな不均衡があるのは明確です。ある場所は富で飽和し, ある所は基本的な栄養や家さえ満たされていません。3000年前でもイザヤがこの課題を示していただきましたが, いつの時代にも問題になっています。

平和を実現する人は人間の公平のために古代のヴィジョンを行動に移します。子どもたちは栄養失調のために死んではならない。しかし, 現実には飢餓のために毎日亡くなっています。老人は忘れ去られるべきではないが, 多くの老人は一人ぼっちです。働いている貧しい人々は住む場所が必要です。それなのに, 彼らはホームレスになっています。私たちはスーパーマーケットで安い産物を買っていますが, それを生産している国は自分の国民に十分な食物を提供できていません。これは正しくありません。聖書の教えは, 私たちが現代の世界に影響を与える行動をするように言っています。

新約聖書による平和

イエスの平和の教えの基礎は最も重要な命令である「あなたの隣人を愛しなさい」に要約されます³⁾。「『隣人を愛しなさい』という命令は, クリスチャンに対して対話路線というような命令と表されている。これは誰彼無しにいつでも対話を追求するということです」⁴⁾。隣人は

いろんな意味に定義されます。単純に言えば、あなたの隣人は近くに住む人です。もっと広い意味では、同じ町、同じ国、あるいは、同じ文化の人々を含んでいます。けれども、普段は自分の内部の人に限定されています。イエスは、私たちに自分の居心地良さから出るように挑戦しています。そのことは、私たちの隣人は誰であるかを考えさせられます。これをイエスの例え話「善いサマリヤ人」の中で、最も明確に分かります⁵⁾。

この話でイエスは人種、文化、財政的な状態に関わらず、困っている人のことを隣人と定義しています。興味深いことに、イエスはサマリヤ人を選んで、困っている人を助けました。当時サマリヤ人は自分たちが主流のユダヤ人文化から仲間はずれにされていると考えていました。だから、この話には2つのメッセージが含まれています。1つは、私たちは周辺の人々をも面倒をみるべきです。2つ目は、私たちは最初に人々を外部者にすべきではありません。このたとえを通してイエスは本当の同情心の深い概念を教えています。

兵力による平和

イエスの時代、ローマ政府は兵力によって平和を押しつけました。彼らは「平和」を維持するために軍隊の力を使いました。現在の多くの政府とほとんど同じです。「平和を実現する人」と呼ばれる軍の多くは、実際は兵士です。「平和を維持する」と呼ばれるミサイルがあります。どうしてミサイルが平和を維持できますか。それは武器です。その目的は破壊することであり創造することではありません。平和を創造するためのそのような解決法は間違いです。そのような解決法は「贖いの暴力」の神話です。他の言葉で言えば、特定の場合において、暴力は贖いの価値があると間違った理解をしているのです。

「贖いの暴力」の用語は定義において矛盾します。「暴力」とは、傷つけるための肉体的な力の発揮、破壊的な行動と定義されています。「贖い」とは、回復、解放、救助と定義されています。本当に、暴力は人の自己価値を取り去るが、贖いは人の自己価値を回復させます。兵力によって平和とハーモニーを維持してきた歴史があります。しかし、私たちはこれらの結果を見ています。軍隊の力の恐れを通して平和を維持することは、しばらくの間は、いいかもしれませんが、最終的に、それらの土台は弱く崩れます。

正義を通しての平和

イエスは平和の確実な基礎を築くために違った方法を提供しています。イエスは、私たちの生き方を通して、いろいろな方法で本当の平和を築くことができると教えられました。誰も完璧な人はいませんが、私たちが神の愛によって正義を求め行動する時、私たちは長く続く平和のための強い基礎を少しずつ創造しています。「平和は積極的なプロセスである。それは私たちの敵を愛し、正義、許しおよび和解を求めることである。それは刑罰の正義を求めること

ではなくて、むしろ修復的正義を求めることである」⁶⁾。軍隊は軍の力を通して平和を求めます。その立場は応報的正義（Retributive Justice）中心であります。けれども、イエスは応報的正義から修復的正義（Restorative Justice）へ導きます。それは正義と関係の癒しを通して平和を求めます。イエスの人生について、聖書の教えは、イエスが平和を実現する神の方法の生きた模範であることを現わしています。旧約聖書に、イエスについての預言は彼を「平和の君」と呼んでいます⁷⁾。新約聖書に、イエスの誕生は「地には平和」の到来として記述されています⁸⁾。

イエスは、私たちが絶えず暴力に頼ることから自由になる方法を示すために地上に来てくださいました。これが世界を救う神の目的の中心です。イエスは、言いました、「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、抑圧されている人を自由にし」⁹⁾。これは直接旧約聖書のイザヤ61：1から引用されています。この預言は、イエスが生まれる700年前に書かれたものです。キリスト教は、イエスがこの預言の成就であると教えています。これは言うのは易しいですが、信じるのは難しいことです。しかし、もし私たちがイエスの人生、言葉、行動を見るなら、私たちはその関連を見ることができます。

愛を通しての平和

キリスト教は、しばしば愛の宗教と呼ばれます。そのとおり、イエスを通して示された神の愛こそが、キリスト教の中心です。イエスは言われた。「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」¹⁰⁾。これは正確にイエスがしてくださったことであり、すべての人間は愛されるに値するとイエスに教えられた。特に愛を返さない人々に愛を示すことを説いています。イエスは「あなたがたも聞いているとおり、「隣人を愛し、敵を憎め」と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである」¹¹⁾。これは、人々との間に暴力ではなく、平和を求める方法をはっきりと説明しています。

イエス「平和の君」が暴力の世界にやって来ました。最終的に、彼は乱暴な人々によって十字架につけられ殺されました。しかし、十字架上の彼の死の意味を理解することが私たちにとって大切です。聖書はイエスが神の子であることを教えています。その資格で、彼は簡単に大きな力で勝つことができたはずですが、しかし、彼はそれを教えるために来たものではありません。彼は暴力ではない他の方法を提供するために来られました。彼は愛、平和、同情、正義の方法を表わすために来られました。

ルカ 15：11-32 にイエスが例え話を示しました。ある若者は父から遺産を生前に受け取りました。そして、彼は贅沢な生活をして、それを浪費しました。最終的に、後悔した彼は父のもとに戻りました。私たちは即座に罰を受けると思っている時、その代わりに同情心を見ます。父親は無条件で息子を愛しています。父親は両手を広げ喜んで放蕩息子を受け入れました。聖書の神はこの話の父親と同じです。神はいつも無条件の愛で私たちを、両手を広げて待っています。

無条件の愛を示すことによってイエスは無抵抗だと理解するべきではありません。むしろ、彼は暴力に非暴力で積極的に応対したのです。怒りよりもむしろ、イエスは同情心で応対しました。愛によってイエスは人間の罪のための犠牲として自分の命を投げ出したのです。彼の無私の行動によって人間が神との交わりを回復する道を開いてくださいました。これが、救いです。

本当に、これは私たちが死んだ後、天国で神と共にいるという確信を与えてくれます。しかし、またこの和解は地上での私たちの人生を劇的に変化させます。人間を本当に変えることができる唯一の方法は平和と和解をとおしてです。間違いは正されます。しかし、私たちは和解のための確かな模範を必要とします。

平和と正義の行動は確かな土台の上に建てられなければなりません。最も確かな土台はイエスの人生についての話の中に見ることができます。イエスこそが平和を実現する人です。イエスが地上で歩まれた人生は、人々との間にそして人々と神との間に平和を作ることでした。これが、最も確かに実践されたのは、イエスの十字架の死でした。彼は人間と神との愛の関係を回復させるために、自分の命を与えたのです。平和を実現する最終的な行動はイエスの復活で実現されました。それは神の贖いを目に見える形にします。「ピースメーカーあるいはシャロームメーカーは新たな社会関係によって神の贖いを実現する。それは人々をいろいろな束縛から解放する」¹²⁾。

神の愛は無条件です。すべての人間に提供されています。イエスは言われた、「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」¹³⁾。このような愛には力があり、暴力のサイクルを打ち壊します。平和を実現する人の愛は世界を変える力を持っています。イエスの人生、死、復活はキリスト教の平和を実現するムーブメントの開始でした。

もちろん時により人間に紛争あるいは対立があるわけです。けれども、イエスは衝突を終らせる手段としての暴力を拒否しました。衝突を止めさせる本当の変化は愛に根ざしているべきです。イエスの人生を通して彼は非暴力の模範を示し教えられました。イエスが言われた。「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にきなさい。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい」¹⁴⁾。これは、他の人間のために無私、無条件の愛を実践さ

れた模範です。また、不当な状況に対して非暴力で答える模範でもあります。

個人的責任

私たちの関心は戦争を避けることだけではありません。それと同時に個人の生活を考えるべきです。もし、私たちが正直なら、現代の生活は物を手に入れることが生活の中心になっていることを告白しなければなりません。現代の社会は消費を強調しています。これが世界の経済を動かしているのです。しかし、この倫理規範は、全世界の生産システムは過度な消費を引き起こすし、他の国の人々を圧迫していることを無視しています。

私たちは目を覚まして、このシステムが人間の健康と発達を促進しないことを悟る必要があります。むしろ、苦しみ、不公平、暴力を永続させるのです。アメリカと日本が手を取り合って弱い国を支配し、私たちが世界の資源の不均衡な分配を消費し続けているのです。この状況は、私たちが一方的な自己中心のシステムに服従している間、決して変わりません。富を持つことは悪いことではありません。しかし、富は人生の意義と満足の源ではありません。イエスはあなたが富を捨て貧しくなるようにと言っていません。むしろ、イエスは本当の富は分かち合うことから来ることを教えています。貧しい人と抑圧されている人のために平等と再生を求めることによって実際私たちは富の支配から自由になります。

ルカによる福音書に金持ちの若い議員についての話があります。彼がイエスに永遠の命を得るにはどうしたらよいかを尋ねました。その議員は神の律法を守っていると言いましたが、イエスは彼にもう一つのことをするように言われました。イエスは言われた。「持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい」¹⁵⁾。イエスが若い議員に彼の富を売り払うように教えられました。イエスは、これが若い議員が人生の本当の自由を見つけることを妨げていると知っていたからです。若い議員は悲しんで去って行きました。彼は富から自由になれなかったからです。彼は富に支配されていたのです。

ある程度私たちは自分を守るために自分のことだけを考えることを合理化します。これは、確かに理性的な考えです。けれども、私たちが正直になるなら、私たちは自分の願望と供給は必要以上にあることを告白しなければなりません。私たちは居心地良い状態を超えています。私たちは、過度な居心地の良さを得ています。平和を実現する人になるために、私たちは過度の利己的な考えから自由にならなければなりません。それは私たちが自分のことを無頓着に無視するというではありません。反対に、自己中心から自由になることによってもっとより良く自分自身の面倒を見ることができるということです。これが実際、人生の最も大きな自由へと導きます。

イエスは言われた、「自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父が鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。あなたがたのうち誰が、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか」¹⁶⁾。あまりにも私たちは心配によって動かされています。イエスは、私たちに心配を捨てるように教えています。代わりに、神を信頼してほしいと願っておられます。

神との個人的な関係は個人的な平和を築く最初のステップです。それから、個人的な平和が他の人との平和と地球上の平和を築く次のブロックになります。隣人の新しい定義を得ることによって、過度な消費と自己の関心事だけを求めないで、積極的に倫理を含めて同情心を推進することは世界のために道を開いていきます。世界のどこでもすべての人間には価値があり、歓迎され、神の祝福の平和を持つことができるのです。

平和への献身

本当に世界は傷ついています。世界を変える働きは易しいことではありません。それは国際的、社会的と個人的なレベルで平和な解決への献身を必要とします。ピースメーカーは「社会的政治的な構造は虚偽と暴力を求める時、正直な愛と答える。圧迫に応じて正義と平和のために働く。神の力、十字架の力、愛の力によって、ピースメーカーは邪悪な力に直面して準備ができ、人間の救いのため、自分の生命を与える」¹⁷⁾と言っています。それはまた消費軽減と経済の平等を求めることへの献身を必要とします。このような献身は果てしない消費に根ざした社会では受け入れ難いかもしれません。しかし、ますます人々が平和、正義、和解を求めることによって、人間の成熟の新しい希望の夜明が展開し始めます。

イエスは平和を実現するという教えを実際に生きました。イエスの誕生は「地上に平和」の到来として言及されています。イエスがこの地上を去る前に弟子たちに言われた、「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える」¹⁸⁾。それから、彼は弟子たちに全世界に出て行って、平和、愛、キリストの希望をすべての人間に分ち合うように言われました。

イエスは「平和の君」と呼ばれます。神は平和の君をこの世に遣わすことによって全世界の人々への愛を实践されました。本当のキリスト教は積極的に人間のための神の平和の計画と贖いを求め、そしてキリストの愛と赦しを受け入れるようにどこでもすべての人々を招くことです。世界中のキリスト教共同体は世界が心から望んでいる希望を提供するために、平和を実現する活動を通してユニークな機会を持っています。

注

- 1) C. Norman Kraus. *The Community of the Spirit: How the Church is in the World*. Herald Press. 1993. Pp. 143.
- 2) イザヤ書65：20-23.
- 3) マタイによる福音書22：36-40.
- 4) Charles Scriven. *The Transformation of Culture: Christian Social Ethics after H. Richard Niebuhr*. Scottdale: Herald Press. 1988. Pp. 81.
- 5) ルカによる福音書10：30-37.
- 6) Paul G. Hiebert. *Transforming Worldviews: An Anthropological Understanding of How People Change*. Grand Rapids: Baker. 2009. pp. 294.
- 7) イザヤ書9：5.
- 8) ルカによる福音書2：14.
- 9) ルカによる福音書4：18.
- 10) ヨハネによる福音書15：13.
- 11) マタイによる福音書5：43-44.
- 12) Perry B. Yoder. *Shalom: The Bible's Word for Salvation, Justice and Peace*. Evangel Publishing House. 1998. Pp. 70.
- 13) ヨハネによる福音書15：13.
- 14) ルカによる福音書6：27.
- 15) ルカによる福音書18：22.
- 16) マタイによる福音書6：25-27.
- 17) Wilbert R. Shenk, ed. *Anabaptism and Mission*. Herald Press. 1984. Pp. 157.
- 18) ヨハネによる福音書14：27.

Summary

Peacemaking and Christianity

Mike Sherrill

Jesus was a peacemaker. His mission of peacemaking began with his community of disciples. They were the first Christian peacemakers. The disciples participated with Jesus in his ministry of compassionate healing, patient teaching and seeking justice. Christian peacemaking can be understood as faith active in love. God demonstrated his love for the world by sending Jesus the “prince of peace” into the world (Isaiah 9:6).

In the Bible, the birth of Jesus is referred to as the arrival of “peace on earth” (Luke 2:14). Before Jesus left this earth he said to his disciples, “Peace I leave you. My peace I give to you” (John 14:27). Then, he told his disciples to go out into the world and share God’s peace, love and hope with all humanity.

Working to transform the world requires a commitment to peaceful conflict resolution on international, social and personal levels. It also requires a commitment to moderation in consumption and seeking economic equity. Commitments like these usher in the dawn of a new hope for the maturation of humanity. Christian peacemaking actively pursues God’s plan of peace and redemption for humanity in order to foster a living hope in the contemporary world.

Key Words: Peacemaking, Christianity, Restorative Justice, Non-violence, Peace

青山學院女子短期大學

紀 要

第六十四輯

平成22年12月 刊

JOURNAL
OF
AOYAMA GAKUIN
WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

NO. 64

DECEMBER, 2010

目次

脳死・臓器移植をめぐる公共的議論と法の役割

.....河見 誠.....1

詞的情景論・(1)——「海辺の別れ」という詞場——

ミュージシャンを読むためのストラテジとしての詞作品研究の課題

.....おかざきかずお.....1

個人語彙規模の測定に関する一考察

.....高野 嘉 明.....9

EFL Wordlists: The Need for a Modern Learner Lexicon

.....Joseph Phillips.....27

女子短期大学生の環境意識

.....梅澤香代子、宮川香織、廣田道夫.....37

日清戦争開戦前夜の思想状況

——金玉均暗殺事件をめぐる一考察——

.....小林瑞乃.....45

バイオ燃料に関するアメリカの動向について

.....信澤久美子.....65

英国産業連盟と1920年代不況

——デフレーションと構造調整——

.....秋富創.....77

身体毀損の噂に見る社会の表象

.....渡辺良智.....93

先行経験が意思決定における後悔に及ぼす影響

.....武田美亜.....111

現代ロシア社会における子どもの養育をめぐる諸問題

..... 村 知 稔 123

習得の時短のための救急蘇生法トレーニング・プログラムの構造解析

..... 渡 部 かなえ 141

ピースメーカーキングとキリスト教

..... シェロ マイク 151

フォーマル・スキーマとしての5文型と英文理解

..... 黒 岩 裕 159

食事場面での母親の行動認識と、感情対処方略としての食行動が、

摂食障害傾向に及ぼす影響

..... 田 中 志 帆 169

青山学院女子短期大学研究成果一覧 187

CONTENTS

OKAZAKI Kazuo	
On the Poetical Background of Popular Song	1
 TAKANO Yoshiaki	
A Note on the Measurement of Personal Vocabulary Size	9
 Joseph Phillips	
EFL Wordlists: The Need for a Modern Learner Lexicon	27
 UMEZAWA Kayoko, MIYAGAWA Kaori, HIROTA Michio	
Study of Ecological Awareness of Women's Junior College Students	37
 KOBAYASHI Mizuno	
The Logic Behind a Justification of the Sino-Japanese War	
—An analysis of Japanese newspaper claims over the assassination of the Korean	
reform politician Kim Okgyun—	45
 NOBUSAWA Kumiko	
Biofuel Problems in the U.S.	65
 AKITOMI Hajime	
The Federation of British Industries and the Depression in the 1920s:	
—Deflation and Structural Adjustment—	77
 WATANABE Yoshitomo	
Images of Society Seen through Body-parts Rumors	93
 TAKEDA Mia	
The Effects of Prior Experience on Regret in Decision-Making	111

MURACHI Toshimi	
The Problems Surrounding the Upbringing of Infants and Children in Contemporary Russia	123
WATANABE Kanae	
An Efficient Program for Basic Life Support Training Designed to Shorten the Time for Mastery	141
Mike Sherrill	
Peacemaking and Christianity	151
KUROIWA Yutaka	
Reading Comprehension and Five Sentence Patterns as a Formal Schema	159
TANAKA Shiho	
The Influences of Mother-Child Mealtime Interaction during Childhood, and Emotional Eating on Eating Problems among under Graduate Women	169
~~~~~	
KAWAMI Makoto	
Public Discourse on Brain Death and Organ Transplantation: the Role of Law .....	1

編集委員

宮田雅智 中井章子

藤本勝義 大野芳材

池田孝一 浅見均

石井孝彦

執筆者（五十音順）

秋富 創 准教授

岡崎和夫 教授

河見 誠 教授

黒岩 裕 准教授

小林瑞乃 専任講師

シエロマイク 准教授

高野嘉明 教授

武田美亜 専任講師

田中志帆 准教授

信澤久美子 准教授

※廣田道夫 教授

Phillips, Joseph 准教授

村知稔三 教授

渡部かなえ 教授

渡辺良智 教授

※梅澤香代子（本学非常勤講師）

※宮川香織（本学家政学科副手）

※印は共同執筆者

平成二十二年十二月十日発行

青山学院女子  
短期大学紀要 第六十四輯

編集  
発行

青山学院女子短期大学  
東京都渋谷区渋谷四ノ四ノ二五

印刷 丸善株式会社